研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
令和３年10月８日発行　No.153

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，教育研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

児童生徒理解講座

令和３年８月４日（水）実施

講義・演習「つながりを大切にした学級経営と児童生徒理解」

講師：高知大学教職大学院　岡田　倫代　教授

児童生徒を理解し学級経営を充実させる三つのポイント

① **自己理解（メタ認知）**
② **他者理解（アセスメント）**
③ **コミュニケーション**

② 他者理解（アセスメント）…子どもと教師の思いには乖離がある

今回の注目ポイント

マスク着用で表情が読み取れない
＝
身体全体から見極めるしかできない困難さ

最近，仲良くしていた友達が，別の子と仲良くしていてさみしい

やる気が出ない！

寝不足かな？

学校で実施するアセスメント

- **現在の情報（身体，精神，生活，家族）**
- **見えるもの…暴言や暴力，精神の状態など**
- **見えないもの…子どもの資質的な能力，いじめ，知られたくないもの**
- **主訴に基づく面接と観察（行動特徴，学力状況，趣味・嗜好等）**
- **生活記録（家族構成，生育歴，教育歴等，母子手帳，日記，手帳，多職種からの記録を含む）**
- **医学的所見・医学的情報（病理所見）**
- **心理学的所見・心理検査（行動観察）結果，相談歴**
- **子どものニーズと保護者のニーズ**

①身体的側面　②心理的側面　③社会的側面

アセスメントの活用

- **指導に役立てるための仮説**
- **長期的指導計画又は短期的指導計画を作成**
- **互いの専門性を尊重…対等な立場で協働的に役割を遂行**
- **PDCAサイクル**

① **ケース会（含む保護者会もある）計画　Plan**
② **支援実行　Do**
③ **評価　Check**
④ **改善　Action**

即時対応が必要なケースはOODAループを活用

OODAループ
（ウーダループ）
「観察（Observe）」
「状況判断（Orient）」
「意思決定（Decide）」
「行動（Act）」

○ **子ども個人へのアプローチ『個人面接のシステム化』（特に年度はじめ，夏休み明け）**

＊　まず子どもを褒める（肯定する）ことから始める…その日の行動を観察しておく
　→子どもは自分のいいところに気付いていないことが多い

＊　子どもの話をひたすら聴く…信頼関係を築く
　→いかに子どもに話をさせるかが重要，雰囲気づくりも大切

＊　適切なアセスメントに結び付ける
　→子どものノンバーバルな部分こそ見逃さない
　　※　ノンバーバル：言葉以外の表情やジェスチャーなどのメッセージ

○ **サインを拾う…PFA（Psychological　First　Aid：心理的応急処置）の考え方**

Look（子どもの様子を見る）→　Listen（子どもの声を聴く）→　Link（子どもを専門機関につなぐ）

【受講者の感想】

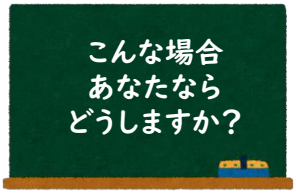
○　教師の様子が児童に反映されることがあるため，改めてメタ認知を行うことの重要性を知り，今後はメタ認知やその他の手立てを行う中で適切なアセスメントを図り，どの児童も楽しく安心して学校生活が送れるような学級づくりを行っていきたいと思った。

○　講義を聴いていて，自分に当てはまるものも多く，ドキッとした。思春期の考え方なども，また自分が考えてしまうようなものもあり，高学年の子どもたちと同じ葛藤を抱えていると思うと恥ずかしいような気持ちにもなった。

特別支援教育講座〔発展編〕

令和３年８月５日（木）実施

【講義・演習】　「インクルーシブ教育システムについて理解し，その実現のために必要な特別支援教育の“発展的”知識・技術について」　　講師：高知大学教職大学院　是永かな子　教授



授業を聞けなくて分からない

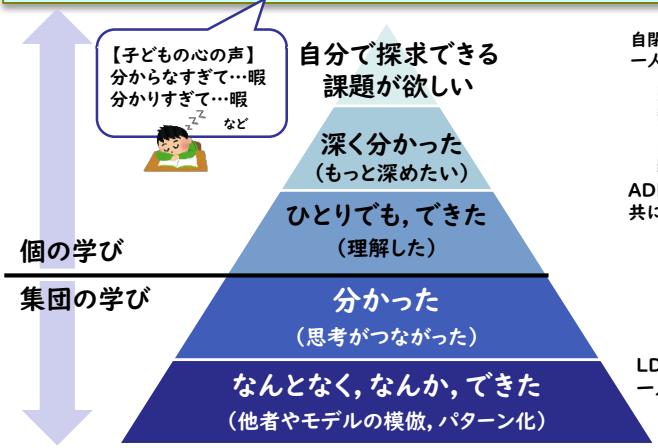
授業中に離席して物を投げて遊ぶ

様々なトラブルによる
連鎖的な授業崩壊

インクルーシブ教育として，
『みんなが学べる教室づくり』『授業づくり』について考えていきましょう！

その１「子どもを暇にさせない授業づくり」 ⇒ 子どもの「授業参加の保障」のために

【子どもの心の声】
分からなすぎて…暇
分かりすぎて…暇
など



「できた」と「分かった」の関係

自閉傾向は
一人で学ぶことを好む

ADHD傾向は
共に学ぶことを好む

LD傾向は
一人ではあきらめる

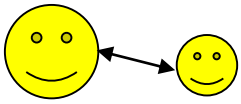
多様な子どもを包括した授業づくり

- □ **子どもが分かって動ける環境づくり〈四つの工夫〉**
  - ① 環境の工夫　② 情報伝達の工夫
  - ③ 教材教具の工夫　④ 評価の工夫
- □ **指示は分かりやすく**
  - 一文一述語，一行動
- □ **自力解決キ一人放置**
  - 課題提示後，１分間動けてない子どもに支援を
- □ **肯定的な言葉かけ**
  - ○ 鉛筆持ってるね
    えらい!!次は，ノートに書くよ
  - × コラ!起きなさい!授業中は寝ない!!

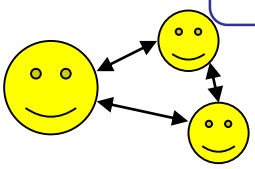
その２「子ども同士をつなげる授業づくり」 ⇒ 子どもの「人間関係形成」のために

【子どもの心の声】
どうやって話かけて
いいのか分からない
など

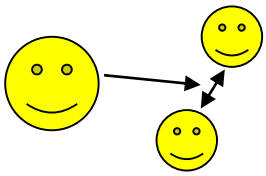
関係づくりの段階



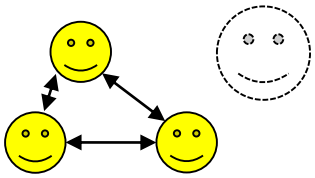
① つながる支援
（先生対子ども）



② つなげる支援
（先生対複数の子ども）



③ つなぐ支援
（子ども対子どもの先生支援）



④ ひろげる支援
（子ども対子ども）

①～④の関係づくりを
上手に組み合わせる
ことが大事です

仲間の関わり方と育て方

指導のポイント

- □ **子どもの困り感を行動で見取る**
- □ **結果ではなく過程を褒める**
  （能力ではなく行動を褒める）
- □ **他人と学べること，他人を認める行動について褒める**

うまくいかないときには，
できる方法を一緒に考える。
褒めて，認めて，励ますことで
一人も見捨てない。

【受講者の感想】
今回大きな学びとなったことは，支援の中で子ども同士をつなぐ，つなげるということである。個別支援をする時は，その児童対教師になることが多い。それも大切なことではあると思うが，学級の仲間が困っている児童にヒントを出したり，考えを伝えたりすることで，児童同士のつながりができる。そのつながりを広げていくことで，児童が学びやすくなるだけでなく，将来的に関係をつなげる力が養われるのではないかと考えることができた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。